

## Background

今や、地球温暖化防止対策は、地球規模での課題となっています。日本ではGHG（温室効果ガス）排出量が1990年度比で8.7%増加（2007年度環境省データ）しており、京都議定書目標から考えると、2012年までに15%程度削減しなければなりません。2009年4月1日に省エネルギー法（エネルギーの使用の合理化に関する法律）や温対法（地球温暖化対策の推進に関する法律）などが改正され、2010年度からは事業所単位から企業単位でのエネルギー使用量・温室効果ガス排出量の報告が義務づけられます。

GHG削減の実現には、すべての企業が自社による取組みを強化することが不可欠です。JMACが1975年来研究してきたERP（Energy Reduction Program：省エネルギー化計画）は、エネルギー効率の最大化を目的とした支援活動であり、これまで多くの実績を残しております。

エネルギー起源のGHGは全体の約90%を占めており、エネルギーの効率化は、資源生産性を向上させ、環境調和と効率的な生産を両立させる活動です。

## Viewpoint

### EMP (Energy Management Program) の目的

「環境調和企業（持続可能な発展）」を目指しますが、その実現には、以下2点の達成が必須となります。

1. 自然界へのGHG排出量 < 自然分解・浄化量
2. 事業に必要なエネルギー消費量 < 資源再生量

そこで、EMPでは「ERP 21」によるエネルギーの削減プログラムと、「EDM (Energy Data Program)」により、トップダウンによる全社活動、体系的・科学的な改善、網羅的・システマティックな活動を展開します。

### ERP21によるエネルギー高効率化

従来のエネルギー（GHG）削減は、ロスの全体把握がなされないまま、エネルギー供給設備への投資と運用改善を中心に行われてきました。ERP21では、エネルギーの消費メカニズムとロスの構造（エネルギー12大ロス）から、削減余地とロスの実態を全て明らかにし、効果的な改善投資を可能にします。

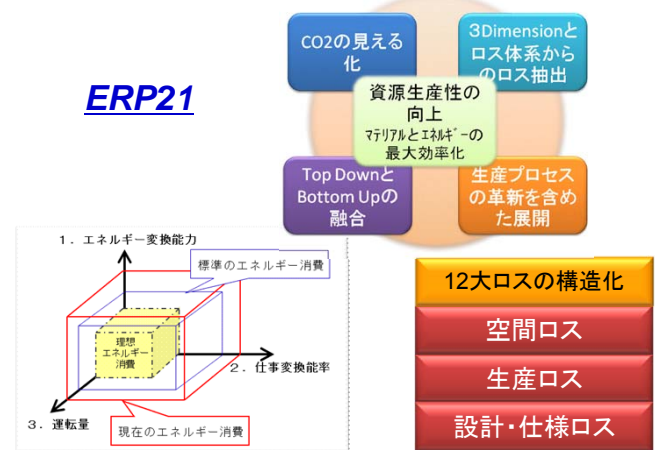
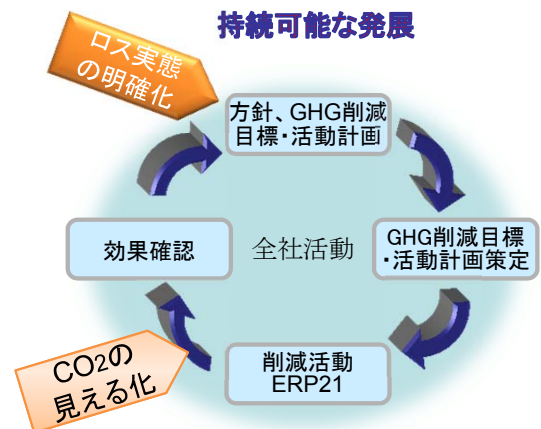
また、把握されたロスから「出せるCO2」も明確化し、システマティックかつ全社的な活動を展開します。

### EDMによる測定・分析・報告

GHG削減の取組みはしている、あるいは、省エネ設備を導入はしたが、この先何をしていいかわからないということはありませんか。

省エネ設備の導入だけでは、改善サイクルは回りません。

EMPでは、エネルギーのロスを構造化することで定量的に分析し、明確化します。分析に基づいてGHG削減活動計画を策定し、効果的な削減活動実施の実現をご支援いたします。



## Our Practice

業種	主な削減対象	削減率
化学	電力・蒸気・水	35%
食品	蒸気・水・電力	24%
冶金	電力・燃料	29%
プラスチック	電力・蒸気・水	21%
電子部品	電力	35%
製薬、食品、等	担当者教育	—

## Service Menu

EMPは、以下の2つのプログラムから構成されています。それぞれ単独でのご支援も可能です。

- ◆ERP21：エネルギー高効率化計画
- ◆EDM：エネルギーデータマネジメント

## Consulting Step

